

令和7年度第2回学校運営協議会 議事録

日時: 令和7年10月28日(火)

9:15～11:20 コミュニティスクール

会場: 本校プレイルーム

[出席者名]

社会福祉法人新生会新生園施設長 ふれあいランドいわて館長 岩手県立療育センター事務局長
矢巾町立矢巾東小学校校長 藤沢自治会自治会長 矢巾2区自治会長
はつらつ狄森会事務局 本校PTA副会長 本校校長

[欠席者]

矢巾町役場 福祉課長 副校長 事務長

[盛岡となん支援学校 職員 出席者]

副校長 総括教務主任 総務部主任

1 開会のことば

2 校長あいさつ

このコミュニティスクールも実績を重ねて進めてきている。委員の方々と現在の進捗状況を共有しながら、学校の未来を語り合える機会になっていることをうれしく思う。学校を支えていただいている地域の皆さんの恩恵を受けてつながりながら、歩みはゆっくりではあるが育っていったらと思う。

3 会長あいさつ

子供たちのために、先生方の思いとこちらでできることなど両方を出し合って一つでも実現していければというのが希望である。少しでも貢献できるような会になればと思う。

4 報告・熟議

[総括教務主任]・・・資料参照

これまでの取り組みの報告(配布資料とパワーポイントを使って説明)

A 地域とともにある活動のネーミング決定と活動報告

子供たちにネーミングを投票してもらい『YT プロジェクト! 笑顔ワクワク大作戦』に決定した。どの活動もこの意味合いが含まれている。学校ではこれから地域との連携での学習活動はR5から特別にこのネーミングを付けている。

今回から学校運営協議会の名称をコミュニティスクールとして使っていきたい。

A 虹の架け橋(東小との自然な交流)

子供たち同士がかかわって、友達同士が次の社会を作っていく、障がいのある子もない子いろんな人がつながっていくということで東小との交流についてはこのように呼ぶこととする。

今後のところで、はつらつ狄森会さんとの昔遊びと一緒に参加、または12月17日の芸術鑑賞教室にオンラインや動画で見るなどができるのか、1つでも2つでも出来たらと思っている。

B 学習環境整備(岩手県交通バス乗車体験、フレームランナー)

岩手県交通バス乗車体験:療育センターの障がい者支援部からの誘いで、今年5月に実現。校外学習の

際にバスに乗ってご飯を食べに行くなどの計画を立てることができた。

フレームランナー:今年も借りることができた。冬の間、体育館に設置する。経験を拡大することができている。学校だけではできないことが、いろいろな連携でできるようになってきている。

C 畑をつくる（木製プランター、白のコンクリートプランター）

木製プランター:学校の Facebook に木製プランターの発信をした。全国で何人かにでも見てもらえたらと思っている。

D 地域交流（名取さんの畑、昔あそび交流、矢巾二区子供会秋祭りの「まがと太鼓」）

名取さんの畑:コミュニティスクールが始まった年からずっと行っている。普段笑顔が見られない子がいい笑顔を見せて、自分から関わり始めた。学校では作れない地域の力を感じることができた。

矢巾二区子供会秋祭りの「まがと太鼓」:秋祭りでの太鼓演奏の動画をこれから音楽の時間に見ることによっていこう予定。

昔あそび交流:コミュニティスクールが始まった年から 4 年目になる。障がいのある子供たちが学校の先生との関わりでは生まれない表情が現れる会である。

E 医大通のプランター設置（PTA と生徒 A による学校の存在アピール）

昨年、矢巾町の花いっぱい運動に申し込んだ。実際に植える活動については PTA に協力してもらった。花の表示を生徒に作成してもらった。矢巾町の花が何かなど自分で調べるなどして表示を作った。ここに学校があるというアピールができた。

地域の方々と一緒にやれるチャンスがあればやれたらと思う。いろいろな方々と関わりながら学校を盛り上げるようなことも必要だと感じている。

F 福祉こども避難所 矢巾町総合防災訓練（他機関・多団体との協働活動）

9 月 14 日に矢巾町と協定を結んで初めての訓練を行った。必要なものが何か、必要な体制は何かなど実際に訓練をやってみながら、そこで出てきたものを整理して準備を進めていくような流れで行っていく。矢巾町の福祉課の皆さんに助けていただいた。学校独自で対応していくのは難しい。人的にも、物的にも足りないものがある。避難してくる子供たちの荷物を運ぶ人出なども振り返り、今後につないでいきたい。学校以外の機関がたくさん関わってやれたというところで、まず一歩進めた感じである。

G 矢巾町福祉協議会 ボランティア養成講座～障がいのある子どもたちを知ろう～

矢巾町の福祉協議会のボランティア養成講座を本校で初めて開催した。障がいについて学びながら、子供たちが安心して暮らし続けることができる町と一緒に作っていこうという趣旨。障がいのある子どもたちを知ってもらえることは本校にとってありがたい。養成講座の内容は地域交流についてお知らせしたり本校の児童生徒の障がいの状態を話したり、そのうえで学校見学の後に中学部と高等部の生徒の授業のボランティアに入る予定。

障がいもその状態も体調も学習の取り組み方もすべてが個々に違う。これが特別支援教育の特徴である。毎年続いていく中で、参加できる子供たちの数が増え、経験できたらと思っている。地域の力で揺さぶっていただけた。

以上報告

（質問、意見）

- ・「福祉こども避難所」についてどんな成果があったのか。在籍されている児童生徒さんたちの情報を福祉課の方に提供しているのか？

→矢巾町の「福祉こども避難所」とはなっているが、具体的なことは、これからになっている。生徒の情報は、提

供までは行っていない。まずは枠組み作りで実際に避難した場合、何が必要かの段階。この避難訓練と一緒にやってみることで、何が足りないのかが少しずつわかってくる。今年はまず一歩というところ。

- ・ 電気の供給は、障がいによってはかなりの電源が必要な方もいる。大規模停電などになった場合など一番心配である。建物自体は安全な建物だが、電気がしっかりと供給できるかが心配である。

→どのくらいの家族を受け入れられるのか、難しい課題もある。

- ・ 療育センターでは、酸素が必要なお子さんが避難して来ることも想定される。なにか災害が起きた際には、通常の事業をつぶして、そこに泊っていただくような想定は所長と話している。一帯に大規模災害が起こった時には対応要請が当然来ると思うのでこの程度の対応を考えている。
- ・ 保護者さん達から活動してみての声は、どのようなものがあつたか、紹介していただきたい。

→本校は感染症対策がまだ続いているため飲食を伴うような活動は、できずにいる。美化活動のプランターの花植えは保護者さん 15 名ほどの参加があつた。花植えが終わった後の茶話会では子供たちの将来のこと、身近な日常の豆知識などの話題が出ていた。小学部の保護者さんからは先輩保護者さんから話を聞いたりすることがよかったとのこと。学部や学年を超えた交流ができたことも新鮮だったとのこと。

イ 付箋の深堀り

[総括教務主任]

第一回目のコミュニティスクールの際に付箋に書いてもらったことの中で ①できたこと(せまれたこと)は黄色 ②これからやれそうなことは青 ③困っていることは赤で、表示した。

①できたこと(せまれたこと)

①カルガモは見えていない間に雛にかえり、引っ越ししていき、自然の摂理とはこういうものと学んだ。1 回成功するとまた来ることもあるようなので来年、準備して待ちたい。

②マリーゴールドを設置した。いろんな人を巻き込んでという点については、話し合っていき、輪が広がっていけばいいと思う。

③けやき祭では、参観する人数制限の解除を今年行った。たくさんの人たちに見ていただきたいが、体育館のスペース上難しい。まずはここまで広がったことで進歩かと思う。

④畑の見える化では、成長日記を作って教室前の廊下に掲示している学級もある。

⑤地域のまがと太鼓のことなどは先ほどの報告の通り。

⑥校外学習で、やはパークに行ったり、日常の活動としてカブセンターや無印良品に出かけて行ったりなど、利用の仕方が広がっていている。

(質問、意見)

- ・ 花を植えた後の水やり等先生方がやったのか？

→教員と技術員さんも協力してくれた。雨が降ってくれたタイミングで何とかなった。

- ・ けやき祭は、広く宣伝していなかったが、まだ感染症対策的に早いのか？ 席に余裕があれば、自治会で宣伝したり、ポスターを貼ったりなどできる。

→体育館の収容人数が難しい。ただ本番は入れ替わりで発表を見ていたので席に余裕があるようだった。矢巾東小学区の方にも案内して、席を作ってもらえたら子供たちも発表に熱が入るかも。

- ・ 療育センターでも門戸を広げてやろうとすると駐車場が一番の問題である。平日であれば外来の診療を通

常通りやっているのでは、混み合う。

- ・ 支援学校や療育センターで決まった行事のとき、予めお知らせしてもらえれば矢巾東小の駐車場をお貸しすることもできるかと思う。

〔総括教務主任〕

②これからやれそうなこと 青

花植えについては、校外の方々と一緒にというご意見をいただいた。徐々に取り組んでいきたい。ビューポイントマップということで、今回高山植物のニッコウキスゲの写真を提供していただいた。授業の教材に頼るだけでなく学習環境や自然環境を整えることをあきらめないでやっていく。

掲示板は、東小と同じ掲示板を作ってみるなどの意見もいただいていた。感染症が流行りだして直接の交流が難しくなってきたが、オンラインで行うことも考えられる。掲示板も校長室前に確保しているので活用していきたい。

(質問、意見)

- ・ ボランティア養成講座を開催するということだったが、講座をして終わりではなく、何か次につなげていけるように、困ったところでお力をいただけるようにつなげていくのも一つと思う。
- ・ 虹の架け橋の動線が短くないと行き来できないと職員から声があった。
- ・ 橋を作るのが難しいのであれば、東小の校門と向こうの門の車止めを外せば、バスでも通れるようになる。バスや車での移動なども考えられる。子供たちの活動以外の時であれば入ることも可能だ。

〔総括教務主任〕

③困っていること 赤

信号機がないため医大通りに出る際とても危ない。今のところの状況を教えてほしい。

- ・ 紫波警察署の方に問い合わせしたところ、警察の方でも現状は把握している。公安委員会から要望が上がっていき審査され県がその後予算を付けて信号機の設置となる流れ。信号のサイクルを変えるなど少しではあるが対応しているとのこと。信号は、学校だけでなくこの地域の問題にもなっている。
- ・ みんなで、声に出していくことで、総合的に前に進めることができるかと思う。

学校の玄関前の駐車場は台数が限られ駐車スペースがない。

- ・ 状況については県教育委員会にも伝えていてわかっているようだが、難しいところがあるようだ。どこかに駐車場の情報はないだろうか。あと 25 台くらいでも停められたら多少は解消できるかも。
- ・ 駐車場のラインのひきかたについて工夫したら多少とめられるのではないかな。
- ・ 東小学校の駐車場は台数が停められる。大きな行事の時には貸すことができないがそれ以外であれば、常時何十台分かは空いている。
- ・ 東小学校は、平日借りるわけにはいかないものかな？
- ・ 大きな行事がない限りは、常に 20 台近くあるかも。裏側の駐車場であれば、許可証を置いてもらって活用してもらえたらと思う。

ウ その他

[総括教務主任]

最後の資料は、全国コミュニティスクール連絡協議会の会報。確認の意味でオレンジのアンダーラインの稲田新吾会長の部分を見ていただきたい。学校と地域の連携が進むことが閣議で明記されたとある。黄色のアンダーラインの部分に関しては、今、学びと育ちを支える仕組みがこのコミュニティスクールを通してできていると感じる。緑とピンクのアンダーラインでは『コミュニティスクールからスクールコミュニティへ』とある。地域が学校を支える。実はこのことが地域の活力を育むという好循環になると書いてある。「学校を核とした地域づくり」がこれから大切な視点だという。となん支援学校では、地域の人たちに知っていただくことが第一歩ということでワクワク大作戦の活動をやってきた。4年たって、共に活動することにより少しずつ本校の理解者が増えてきている。地道に取り組む続けることが大事で無理せずに行きたいと思う。皆さんの4地域にも、本校を使って少しでも地域づくりの一端を担えたらと思っている。

(質問、意見)

- ・ 今、矢巾町の地域づくりは小学校単位で自治会長と子供会の役員で集まってやっている。この間、矢巾東小学校の特徴の一つにとなん支援学校が隣にあることを伝えた。今のスクールコミュニティの話を続けるとここの地域は東小もあり支援学校もありということで、また違うスクールコミュニティになるのではないかなと思う。スクールコミュニティの発想で行くと支援学校のPTAの方々にも入ってもらえるのもいいかも。
- ・ 民生委員の研修で、奥中山のカナンの園に見学に行って話を聞いた。その時、一戸町奥中山は、障がい者に日本一親切な町と聞いた。障がい者の比率が多く、コンビニも親切とのこと。それならこの藤沢地域も同じように言われてもいいのではないかな。そういう地域づくりをしていくことが、インクルーシブ教育にもつながると思う。

5 その他

・ 事務連絡

次回のコミュニティスクールは2月27日。

(委員からの感想)

- ・ 町の地域づくりメンバーに入っている方々もいるので、我々がこの会から発信し、この学校が東小学区の特徴であり学校を生かした地域づくりとして発信し続けていけば、次に展開していけると思う。居場所と役割をどう作っていくか、それは学校という視点で、それぞれの立場で役割を担い、学校という一つの居場所や出会いの場を作っていると感じた。
また固定された誰かがいなくてもできる仕組みづくりをお願いしたい。様々取り組んでいることを生かしてつなげてほしい。
- ・ 笑ったことがない子が笑っている。このような新しい経験をつなげてほしい。
- ・ 取り組みが丁寧に行われている。学校というところで地域から注目される場所になると思う。
- ・ 矢巾東小学区の開発が進んでいる。たくさんの意見から出来そうなことを小さいところから始めていけたらと思う。今あるものでできることは協力し合いながらやっていけたらいいのかなと思う。自然にできること、思いついたときにやってみてダメならまた違う視点でというような発想でもいいと思っている。県立、町立の垣根を越えて協力できることが強みだと思う。お互いに助けたり助けられたりの関係を続けていきたい。
- ・ 次回は今年度最後となる。次回までに学校の困りごとなどを含めてこの会からあげてもらえたら、解決できるものがあるかもしれない。それは、1回で解決は絶対に無理だと思うが毎年毎年あがっていけば何か進むも

のと思う。

- ・ 今年から参加させてもらった。できたこと、やれそうなこと、困っていることといろんな話がでた。もっといろいろな課題が出てくるかもしれない。皆さんで話し合っていけばいい会になると思う。
- ・ 皆さんが真剣に同じ方向を目指して話をしているのを聞いて自分自身の刺激になった。
- ・ 子供がこれから自立していく社会は厳しいものがあると感じている。そんな中で障がい者と健常者の壁が少しでもなくなるように、お互いに理解していくことが大切だと思った。
- ・ 学校と地域と関係する皆さんとで垣根を越えて話し合いができたこと、ありがたく思う。生きた体験が子供たちの違った一面を育ててもらっていると感じた。小さなことから一緒に話し合い、相談することがいつか大きなことを成し遂げることにつながるものと思う。

6 閉会の言葉